

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第6週 (2/3-2/9) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	6週	5週	4週	3週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県 1/27-2/2
		注意報	2/3-2/9	1/27-2/2	1/20-1/26	1/13-1/19	
			6週	5週	4週	3週	
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	2 0.11	2 0.11	1 0.06	29 0.21
	咽頭結膜熱		3 0.17	3 0.17	4 0.22	3 0.17	18 0.13
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	64 3.56	63 3.50	73 4.06	39 2.17	689 5.10
	感染性胃腸炎		128 7.11	138 7.67	118 6.56	128 7.11	833 6.17
	水痘		9 0.50	3 0.17	4 0.22	2 0.11	46 0.34
	手足口病		1 0.06	1 0.06	3 0.17	2 0.11	35 0.26
	伝染性紅斑		1 0.06	3 0.17	5 0.28	4 0.22	37 0.27
	突発性発しん		13 0.72	5 0.28	8 0.44	4 0.22	29 0.21
	ヘルパンギーナ		2 0.11	1 0.06	0 0.00	0 0.00	3 0.02
	流行性耳下腺炎		1 0.06	3 0.17	3 0.17	0 0.00	7 0.05
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓	273 9.75	421 15.04	468 16.71	456 16.29	3,436 15.98
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		1 0.20	1 0.20	3 0.60	5 1.00	18 0.51
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	4 0.44
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	80歳代	病原体等の検出	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	風しん	男性	50歳代	血清IgM抗体の検出
急性脳炎	男性	10歳未満	高熱、中枢神経症状等	-	-	-	-

*第6週は、結核2件(20)、レジオネラ症1件(2)、急性脳炎1件(2)、梅毒1件(2)、百日咳1件(2)、風しん1件(2)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第6週のコメント

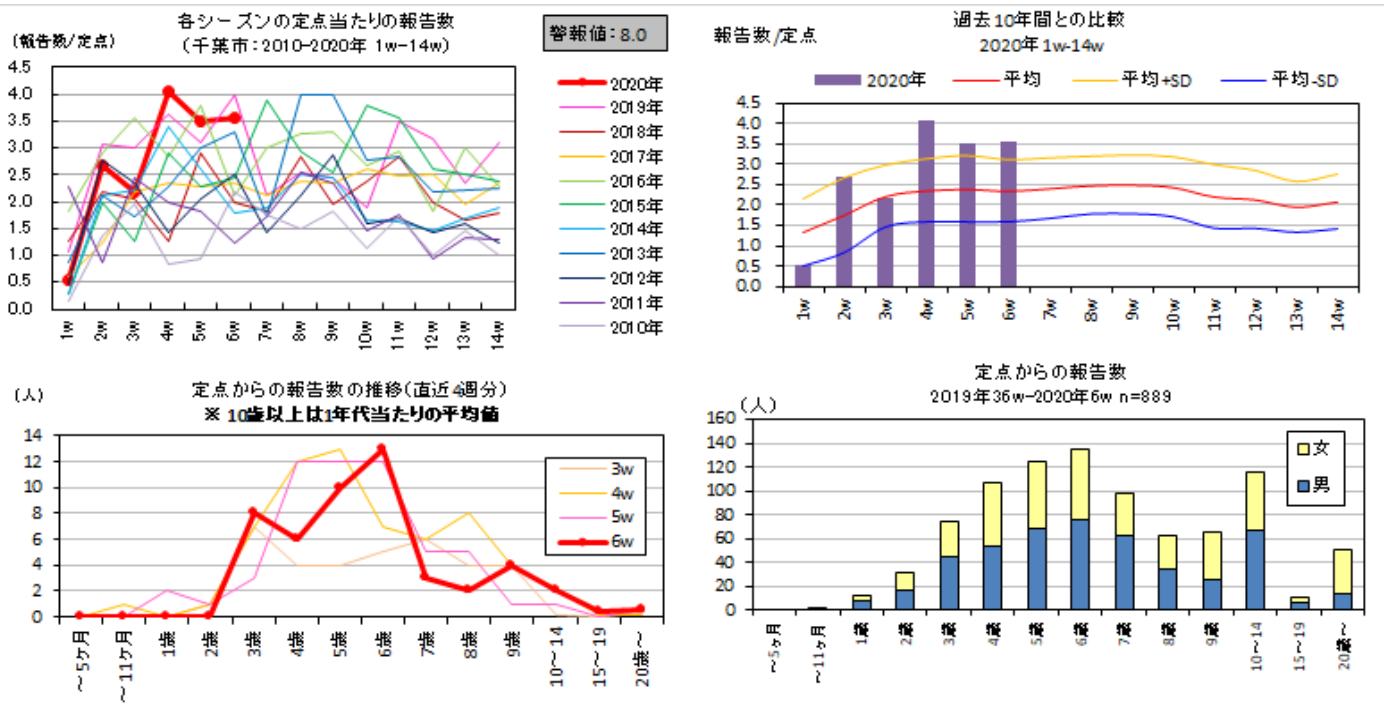
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>前週より若干増加し3.56となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<インフルエンザ>前週より更に減少し9.75となり、流行発生注意報基準値を下回った。過去10年の同期と比べるととても少ない。

■ トピック ■

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第5週の定点当たりの報告数は3.49となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では石川県、福岡県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は5.10で、全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第6週は前週より若干増加し3.56となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(7.00/定点)で最多で、同区の6歳で最も多く報告がありました。今シーズンである2019年第36週から2020年第6週までの累積報告数は889件で、性別では男性が53.7%(477名)、女性が46.3%(412名)となっており、年齢階級別では6歳(15.2%:135名)、5歳(14.1%:125名)、10歳代前半(13.0%:116名)の順で多くなっています。



<インフルエンザ>

全国レベルの第5週の定点当たりの報告数は14.11となり、流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回ったままですが、過去10年の同時期と比べるととも少なくなっています。都道府県別では高知県、愛知県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は15.98で、全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第6週は前週より更に減少し9.75となり、流行発生注意報基準値を下回りました。過去10年の同時期と比べるととも少なくなっています。区別の発生状況は、中央区(13.20/定点)で流行発生警報終息基準値(10.0/定点)を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、10歳未満では7歳で最も多くの報告がありました。その他、若葉区(12.75/定点)及び稲毛区(11.00/定点)で流行発生注意報基準値を上回っています。今シーズンである2019年第36週から2020年第6週までの累積報告数は4309件で、性別では男性が51.5%(2218名)、女性が48.5%(2091名)となっており、年齢階級別では7歳(7.5%:325名)、8歳(6.6%:284名)、6歳(6.0%:257名)の順で多く、20歳未満が全体の71.6%(3084名)、10歳未満が全体の50.1%(2160名)となっています。

